

此装置ニヨリ小量水計カ如何ナル大徑管内ノ流量ヲモ計ルニ足ルモノトナルヘシ
水量ヲ表示スヘキ文字板ヲ製作スルニ二法アリ

一ハ著者ノ範式ニヨルコト

二ハ量水計試験室内ニ於ケル實驗ニヨルコト

譯者曰 數年前本著ヲ得テ拙譯ヲ試ミ同僚二三氏ニ示シ實驗ヲ勸誘セシコトアリ後大正二年申
し一めんすはるすけ商社ノ量水計型錄ヲ得ルニ及ヒ西曆千九百十二年同社ニ於テ此原理ヲ應用
セル量水計ヲ製作シ僅數ナカラ漢堡及維納ニテ使用セラレ成績良好ナルヲ知り得タリ依テ之ヲ
某港新水道ニ採用ノコトニ取計ヒ置キタルモ歐洲戰爭ノ爲ニ果サス其他本邦ニ於テ既ニ採用セ
ラレタル所ノ有無ハ寡聞ニシテ未タ承ハラス現品ハ格別六ヶ敷品ニテモ無キ様子ニ付工場ノ自
由ニナル諸君ハ一應實驗ヲ試ミラレンコトヲ希望ス(完)

技術者ハ自己ノ技能ヲ商フヘシ

(Engineering Record Vol. 74 No. 3 July 15, 1916.)

近時技術方面ニ志ス學生ノ減少セシ事ト其ノ教育方法ノ改善ニ關スル論議漸ク盛ニナリシカ之
ト相關聯シテ Middle Western Institution ノ先輩ニシテ知名ノ某氏ハ次ノ如キコトヲ云ヘリ
余ハ種々雑多ナル職業ヲ持テテ爾ト接觸スル先輩ノ一員ナルカ近時我國ノ青年學生カ如何ナ
レハ工學ニ對スル興味ヲ失ヘルカニ就キテ疑問ヲ懷キシカ此ノ現象ハ技師職業カ制ニ合ハサル
モノナル事ニ原因セルヲ發見シ得タリ

拔萃 技術者ハ自己ノ技能ヲ商フヘシ

技術方面以外ノ學生カヨリ優レタル根底ヲ得テ大學ノ門ヲ出テタリトハ余ト雖モ之ヲ信スル能ハスサレト工學生ハ學校時代ニ於テ將來彼等ノ成功ニ必須ナル或ル教育ニ缺ケタル事ハ見落スヘカラサル事ナリ

總テノ技師ハ自己ノ考案ト製作品トヲ商ハサルヘカラス然ルニ彼等カ若シ論理ニ疎ク筆ニ訴フルヲ得ス人ヲシテ彼等ノ設計ノ價值ヲ首肯セシムル辯舌ヲ持タサル時ハ換言セハ論議文筆ヲ以テ自己ノ卓犖タル才能ヲ資本家ニ表明スル能ハサル時ハ玉ヲ抱イテ餓死スルト選フナキナリ卓犖タル工學的才能モ遂ニ何等得ル所ナクシテ終ルナリ

マタヨリ劣レル技師ハヨリ優レタル技師ヨリモ成功早キ觀アルハ屢々見聞スル所ナリソハ前者ハ生レ乍ラニシテ商賣上手ナルカ故ナリ技師ハ理論ニ於テ辯舌ニ於テ法律家ト同シク修業シテ法律家カ彼等ノ専門的智識ヲ賣ル如ク技師モ其ノ専門的智識ヲ商ハサルヘカラスサレハ工業學核ニ於テ學生ヲシテ文筆論議ノ教育ヲ施サ、ル限リハ技師職業ハ依然トシテ學生ヲ誘引スルニ足ラサルヘシ

叙上ノ説ハ余一己ノ考ノミナラス此ノ問題ニ關シテ討議セシ他ノ幾多ノ技師ノ意見ヲ吐露セシモノナリ余ハ二人ノ息子ヲ持ツ者ナルカ彼等カ大學時代ニ於テ明晰ニ書キ論理的ニ説服的ニ議論スル素養ヲ修得スルニ非スンハ技師職業ヲ彼等ノ生涯ノ職業トシテ擇ハシムルハ余トシテ到底忍ビ得サル所ナレハ極力之ニ反對セント欲スルナリ

最後ニ一言シタキハ職業倫理ニ關シテナリ之ニ對シテハ現今當ニ拂ハサルヘカラサル注意ヲ拂ハサルナリコハ又技師職業ニ於テモ同様ノ現象ナルカ故ニ工業學校側ニ於テハ最モ慎重ニ注意シ考慮スヘキモノナリ而シテ學生カ四年間ノ學校生活ニ於テ如何様ニ養ハレシカハ複雑ナル問題ナレト兎ニ角根底ヨリ變化改善スヘキ必要アルヲ認ムルナリ(完)